

第6学年 ESD 社会科・総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 島 俊彦

1. 単元名「わたしたちの生活をよりよくする政治」

2. 単元の目標

- ・ 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて調べまとめることを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解することができる。 (知識・技能)
- ・ 国や地方公共団体の政治の取組と国民生活について、調べたことを比較・関連付けて適切に考えるとともに、政治の働きや、国民としての政治への関わり方について、多角的に考え、適切に表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ・ 子育て支援など社会保障に関する国や地方公共団体の政治の働きに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、我が国の政治に主体的に関わろうとすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本小単元と、学習指導要領との関わりは、以下の通りである

- | |
|---|
| <p>(1) 我が国の政治の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(イ) 国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。</p> <p>(ウ) 見学・調査したり各種の資料で調べたりして、まとめること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(イ) 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。</p> |
|---|

この内容は、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分されるものである。実際の指導に当たっては、「国や地方公共団体の政治」の取組について、児童が具体的に調べられるよう、社会保障に関する事例として、川上村の子育て支援(「習い事補助金」)を取り扱う。

日本創生会議は、全国 896 市町村のうち約 8 割の自治体が、2040 年時点で人口減によって行政機能を維持できなくなる可能性がある」と推測した。国立社会保障・人口減少問題研究所が発表した「地域別将来推計人口」によると、2045 年の奈良県総人口は 100 万人を割る見通しが明らかにされた。同資料によると、人口減少率の高い市町村全国ワースト 10 のうち、5 つが奈良県内の市町村であり、ワースト 1 は、県南東部に位置する川上村であるという。社会の変化に伴う少子高齢化や人口減少率の上昇などは、国や県、市町村が抱える深刻な課題である。児童がこの課題と向き合い解決していこうとすることは、日本社会の持続可能性という観点から極めて重要である」と考える。

川上村では、1955年には8132人だった人口が、2015年には1313人となっている。30年間の人口減少率(79.4%)は全国で最も高く、2045年には270人(内75歳以上が約6割)になると推測されている。危機感を抱いた村役場は、人口減少を食い止めようと様々な事業に取り組んでいる。例えば15年に設置された定住推進課は、移住者の雇用づくりを行うなど、移住者が生活しやすい環境を整える役割を担っている。15~17年度は、計16世帯40人が村に移住しており、年3世帯10人の目標を大きく上回る成果をあげている。

移住者の増加に伴い、村に住む子どもの数も多くなった。そこで、村は子育て環境の整備にも注力している。「子育てに優しい村づくり」をモットーに、住民福祉課がその中心を担い、村役場として出産・子育てをサポートしている。村で安心して子どもを産み育てられることを目指しているのである。

川上村の特色ある子育て支援の一つとして、「習い事補助金」がある。この制度は文化、芸術、スポーツなどの習い事や学習塾について年間の受講料の3分の1を補助するものである。29年度は、村の児童生徒の7割以上に当たる25人が申請している。正式名称を「へき地格差是正補助金」と言い、子どもの習い事に掛かる時間と費用を是正することを目的に、平成27年度から始まった。

習い事補助金について、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせ、問いを設けて調べたり、それらの取組と国民生活を関連付けて考え表現したりすることで、「国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしている」ということが理解できる好事例であると考えられる。

(2) 児童観

前小単元(「日本国憲法の役割と我が国の政治の働き」)では、日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていること、また三権(立法・行政・司法)がそれぞれの役割を果たしていることを学習してきた。小単元の振り返りで、日本国憲法の三つの原則(国民主権・基本的人権の尊重・平和主義)と自身の生活の関わりについて記述させた際は、具体的な生活場面を取り上げ、考察することが出来ていた。前小単元において、我が国の政治の働きを概観した学習経験は、より具体的な政治(地方公共団体の事業)を取扱う上で生きてくるだろう。

本学級の児童の課題は、自分の考えを表明できない(ノートへの記述や音声言語での発表)児童が多く在籍することである。今までの社会科学習において、用語や具体的知識の獲得に主眼を置いた学習を展開してきた自身の授業スタイルが、原因の一つに挙げられる。そこで、矛盾により問いの生まれやすい資料の提示や、多面的に考察できる社会的事象を授業で取り扱うなどの手立てを講じ、児童の思考力を高めさせていきたい。

(3) 指導観

本実践は、「みつめる」「しらべる」「まとめる」「いかす」という4つの段階で構成する。「みつめる」「しらべる」「まとめる」段階は、社会科を充当する。社会的事象と児童が出会い、調べまとめることを通して、児童が社会的事象の意味や特色を理解できるようにする。また、「いかす」段階は総合的な学習の時間を充当する。前段階までに獲得した知識・技能や、働かせた社会的事象の見方・考え方を生かし、大和郡山の市政について探究していくことを通じて、児童に持続可能な社会の創り手に求められる資質・能力を育ませたい。

「みつめる」段階では、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせて問いを見出し、自分達の力で学習問題をつくられるよう、資料提示や発問の工夫を行う。

第一時では、児童がもつ既有知識や生活経験をもとに、我が国の抱える課題にはどのようなものがあるかについて話し合わせる。様々な意見が予想されるが、少子高齢化や人口減少といった視点は必ず児童から出てくるだろう。次に、国立社会保障・人口問題研究所が発表した、日本の人口減少率や人口ピラミッド、消滅可能性都市を示す日本地図などの資料から、少子高齢化が深刻化していることや、人口減少率が上昇していることを読み取らせる。また、それらの課題が、我が国や人々の生活に与える影響について話し合わせることで、我が国の抱える課題を、国民生活と関連付けて捉えさせたい。さらに、奈良県の課題も児童に捉えさせたい。奈良県市町村別の人口減少率を表す地図や、人口減少率が高い全国の市町村ランキング(読売新聞 2018. 4. 8)などの資料から、全国ワースト 10 のうち、県内 5 市町村が含まれていることや、川上村が 1 位であることを読み取らせ、自分達の住む奈良県も深刻な課題を抱えていることに気付かせたい。

第二時では、川上村に焦点を当てる。まず、GoogleEarth や動画(「ふりむかないで-奈良県・川上村-)を視聴させ、児童に川上村がどのような村なのかといったイメージをもたせる。次に、人口減少率を表すグラフを提示し、川上村の人口減少が深刻な事態であるという事実を児童に掴ませる。その上で、近年川上村の子どもの数が増加しているという事実を表すグラフを提示する。児童は、「川上村は人口減少が進んでいるのに、なぜ子どもが増えているのか?」と疑問をもつとともに、「村役場が、何か働きかけているのではないか?」と予想をもつだろう。そこで、「課題を改善し、活性化させるために川上村はどのようなことを行っているのだろうか?」と学習問題を設定したい。学習問題の予想をみんなで話し合わせ、学習計画を立てさせることで、児童が単元の学習を見通すことができるようにしたい。

「しらべる」段階では、学習計画に沿って川上村の子育て支援に関する取組(「習い事補助金」)について具体的に調べさせたい。そこで、「どのような制度なのか」「どのような過程を経て取組まれてきたのか」「どのような法令に基づき、予算はどのように決められているのか」といった問いを設け、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせて調べられるようにする。児童が具体的に調べられるよう、子育て支援の中心を担う、住民福祉課の中川さんに電話で聞き取り調査を行ったり、新聞記事や村の広報誌などの各種資料を用いたりして、調べ学習を進める。また、取組と川上村民の生活を関連付けて捉えさせるため、制度を活用する村民の話などに着目させたい。

「まとめる」段階では、調べたことを基に、習い事補助金を実施されるまでの過程や、取組と川上村民の生活との関わりをフローチャート図にまとめ、表現させたい。作成した図をもとに学習問題について議論することを通して、児童が社会的事象の意味や特色を、多面的・多角的に考えられるようにしたい。また、そのことによって児童が中心概念の獲得に迫られるようにしたい。

「いかす」段階では、総合的な学習の時間を活用し、自分達が暮らす大和郡山市の政治について探究させたい。まず、地域住民を対象に、「市の政治に求めること」について街頭インタビューを実施する。次に、アンケート結果を集約・分類し、市の行政に対して、市民がどのような願いを抱いているのかを分析させる。その上で、市民の願いと市の重点目標(総合計画より)を比較させ、市は市民の願いに対してどのような施策を行っているのかを考察させる。市民の願いに対して適切な施策もあるだろうが、不十分なものもあるだろう。その点について、改善策を児童に考えさせ、企画政策課の方へ提案させたい。自分達の考えた案に対して、その実現可能性などをフィードバックしてもらおうこと(対話)を通して、社会参画していく児童の資質・能力を高めていきたい。

(4) ESD との関連

学習を通して主に養いたい ESD の視点

【相互性】：川上村や大和郡山市の施策について調べることを通して、政治と国民生活のつながりに気付くことができる。

【公平性】：政治には地域の実態や人々の願いが反映されており、様々な立場の人々がより生活しやすいように考慮されていることを理解できる。

学習を通して主に育てたい ESD の資質・能力

【クリティカルシンキング】：川上村の政治について調べた際に働かせた社会的事象の見方・考え方を活用して、大和郡山市の施策の問題点を見出し、改善に向けた具体的な提案を市に対して行うことができる。

【協働的問題解決力】：大和郡山市をより良くするために、仲間や市役所の方と対話して、具体的な改善策を市に提案することができる。

学習を通して主に育てたい ESD の価値観

【世代内・世代間の公正を重視する】

国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしている。また、将来のことも見通した施策を行っている。

SDGs への貢献

【目標 3：すべての人に健康と福祉を】

国や地方公共団体の政治は、人々の生活安定と向上を図るために大切な働きをしている。

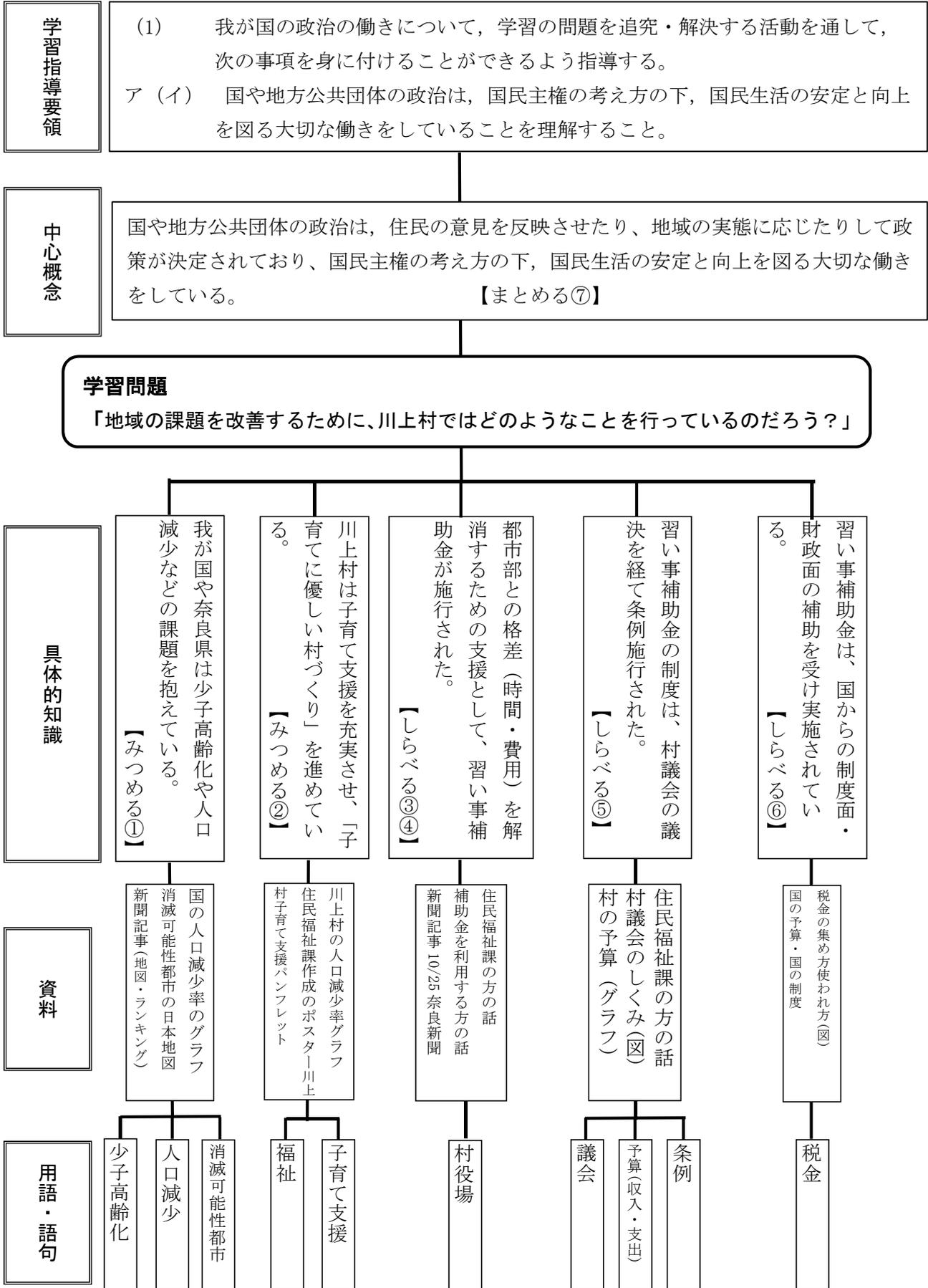
【目標 11：住み続けられるまちづくりを】

国や地方公共団体の政治は、地域の実態に応じた施策を行うことによって、人々の生活安定と向上を図り、持続可能なまちづくりを推進している。

4. 評価規準

ア 社会的事象についての知識・技能	イ 社会的事象についての思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 川上村の政治の特色や村に住む人々の生活の様子について、資料から必要な情報を集め、読み取っている	① 川上村の政治の特色や村に住む人々の生活の様子について学習問題や、学習計画を考え表現する。	① 子育て支援など社会保障に関する国や地方公共団体の政治の働きに関心を持ち、意欲的に考えようとしている。
② 国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。	② 川上村の政治の特色と村に住む人々の生活の様子を関連づけて考え、適切に表現している。	② 我が国の政治に主体的に関わろうとしている。

5. 知識の構造図（社会科）



6. 単元の構想図

日本社会が抱える課題は？

人口減少 日本→奈良（川上村）

人口減少，少子高齢化，
外交，災害，異常気象等

奈良は全国的に見ても課題が
大きいんだね。（全国 5/10）

人口減少率日本一の川上村は、
いったいどんな村なのだろう

人口減少によって、どのよ
うな影響があるのかな？

5つとも県南部
の村だ！なぜ？

川上村では何か対策
していないのかな。

川上村に住む子どもの数(増)

人口減少日本一の
村が、ベビーブーム!?

村の課題を解決するために、役場は
どのような取組をしているのかな？

きっと、役場が何か対
策をしているんだよ！

村民は役場に対して、どのよ
うなことを望んでいるのかな？

地域の課題を改善するために、川上村ではどのようなことを行っているのだろうか？

【川上村の子育て支援：習い事補助金】

- ・どのような取組か？なぜ取り組まれているのか。※住民の願い・政策の内容
- ・取組が人々の生活に与える影響。※国民生活における政治の働き
- ・取組が始まるまでの様子。※計画から実施までの期間や過程
- ・税金の働き（国との協力関係、財政や制度による国や政府からの支援）
※法令や予算との関わり→租税教室の活用

川上村役場
住民福祉課
中川さんに聞こ
う！

④施策の概要（様子）をフローチャートにあらわす

住民の願いを叶
えるための取組
だね。

村議会で決定したり、予
算をつけたりしたのだね

国は地方の主体的
な政治を、財政や制
度で支えているね

【大和郡山市】

- ・「大和郡山市の政治に望むこと」を街頭インタビュー→学級で共有・整理
- ・整理したものと、総合計画を照らし合わせる
- ・市民の願いに対して、市の施策が不十分な点を見出し、その改善策を考える。

大和郡山市の基本目標（総計）①雇用創出②定住者増大③子育て支援 ④時代や地域の現状に適したまちづくり

市民の願いと、市の施策を比較する
→不十分な点を見出し、改善策を考える

自分達が考えた改善案を提案しよう！

大和郡山市、企画政策課の方との対話！

7. 展開の概要 (全 14 時間)

	主な学習活動	●指導上の留意点 ・資料	評価
みつめる ① ②	<p>○我が国の課題について話し合う。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国が抱える課題について話し合う。 ・奈良県(川上村)が人口減少の課題を抱えていることを知り、人口減少による国民生活への影響について話し合う。 <p>○学習問題をつくる。② (本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川上村における人口減少の実態と、近年のベビーブームについて知る。 ・疑問を出し合い、学習問題をつくる。 	<p>●既習事項や児童の生活経験、資料などを基に、我が国が抱える課題や、それにより国民生活にどのような影響がでるかを捉えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口減少率グラフ ・新聞記事 <p>●矛盾する2つの資料から、児童に問いをもたせる。・人口減少率と出生率のグラフ</p> <p>●村役場(政治)の働きに着目させる。</p>	イ①
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>地域の課題を改善するために、川上村ではどのようなことを行っているのだら</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習問題に対する予想を立て、話し合う。 ・習い事補助金について調べるために、学習計画を立てる。 		
しるふ ③ ④ ⑤ ⑥	<p>○習い事補助金とは、どのような取り組みなのだろう？③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習い事補助金の内容や目的を知る。 	<p>●子育て支援として、地域格差是正(教育の機会均等)を目指し、実施されたことに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット ・新聞記事 	ア① ウ①
	<p>○習い事補助金が、川上村の住民に与える影響はどのようなものだろう？④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習い事補助金の実施によって、村民がどのような影響を受けているのかを知る。 	<p>●村が習い事の費用を補助することで、保護者の精神的なハードルを下げ、子どもが村外で習い事をしやすくなったことを捉えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞(インタビュー)記事 	
	<p>○習い事補助金は、どのような過程を経て取り組まれているのだろう？⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習い事補助金の計画から実施までの期間や過程などを知る。 	<p>●案は議会の承認を経て決定されるなど、政策が意図的計画的に行われていることを捉えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集の図 ・住民福祉課職員の方への聞き取り 	
	<p>○習い事補助金は、どのような法令に基づき、予算はどのように決められているのだろう？⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習い事補助金を実施するために、どのような法令に基づき予算が定められているについて知る。 	<p>●国は地方公共団体の主体的な政治を、財政や制度の面から支援していることや、税金が政策や事業のために使われ、国民生活の向上や安定のために重要な役割を果たしていることを捉えさせる。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめる⑦</p>	<p>○地域の課題を解決するために、国や地方公共団体では、どのようなことが行われているのだろう？⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を解決するための政治について、国、川上村、村民の関係を図にまとめる。 ・地域の課題を解決する政治について、大切なことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●調べてきたことを、三者の立場から関係図にまとめさせることで、習い事補助金の意味や特色を、多角的に捉えさせる。 ●関係図から国や地方公共団体の政治が国民生活の向上や安定に大きな役割を果たしていることに気付かせる。 	<p>ア② イ② ウ②</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">いかす(総合的な学習の時間)⑧～⑭</p>	<p>○大和郡山市の政治は、どのようなことを行っているのだろう？⑧～⑭(総合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が市政にどのようなことを望んでいるのかについて予想し、話し合う。 ・市政に望むことについて、市民にインタビューを行う。 ・インタビューの結果を、大和郡山市総合計画に示された重点目標と照らし合わせ、観点毎に分類・整理する。 ・市民の願いに対して、市政が不十分な点について、班ごとに改善案を考える。 ・班ごとに考えた改善案を、学級内で共有・評価する。 ・市役所(企画政策課)の方に対して改善案を提案し、評価してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項や児童の生活経験などを基に予想させる。 ●インタビューの内容項目を考えさせるとともに、練習を行う。 ●保護者や近隣の住民にたいしてインタビューを行わせる。(街頭調査も実施) ●市民の願いを分類・整理する前に、総合計画に示された、市の将来像と戦略目標を紹介する。 ●班ごとに考えた改善案を提案し合い、企画政策課へ提案する班を決める。 ●提案しない班の児童も、提案する班の改善策について評価をする。 	